

「奉仕の理念」の涵養

社会生活で、「他人を思い遣る心」に関心の低いタイプは、ロータリアンとしての、資質に欠けていると言わざるを得ない。

大切なことは、人と人との関わりを、どのように受け止め、どう対応して行くかに有ります。人は皆、自分の考えを基に判断して、行動を致します。自己中心的な行為は、ごく当然なことです。大切なことは「生き方の基本」を、どのように自覚するかにより、ロータリアンとしての有り様は、大きく変わるものです。

ロータリーでは、生き方の基本を「奉仕の理念」と言っ、「思いやりの心」や「温かい心」とか「分かち合いの心」などと申して、こうした心を根底に置く、精神的境地の向上を奨励しております。

日常の行動で、此の事を認識することにより、ロータリアンとしての資質が深まり、自らの人格を高め、品格を保とうとする気持ちが確立されるのです。会員であることは素晴らしい研鑽の機会です。

行動は、自ずと奉仕の実践に至る。例会活動を通じてこの精神が涵養される処にロータリー・クラブの独自性がある。

【ポール・ハリスの語録より】

私たちの生きる目的は何でしょう？ 学ぶことです。 何を学ぶのですか？
人生を学ぶのです。 人生から何を学ぶのですか？ 人生から学ぶことは唯一つのことです・・・人生を送る中で、いかにエゴと決別するかを学びます。

(ナショナル・ロータリアン 1912年7月号)